



学校だより 人・地域・学校を結ぶ

# むすぶ



「立志」を育み「気概」を養う

新潟市立結小学校  
令和6年9月3日号



## 「防災」を窓口に問い直す

教頭 酒井 慎一郎



高知県に行きました。

高知県と言えば、鯉のたたき、いもけんぴ、坂本龍馬、高知城、ひろめ市場…。

今回の目的は全国公立学校教頭会研究大会の参加です。研究会2日目。会場に向かう途中、階段がむき出しになっている細長い高い壁が目に入りました。その頂上には「津波避難ビル」という文字。「そう言えば、高知のテレビでも、南海トラフ地震への備えを呼びかけるCMを多く目にしたなあ」と思った瞬間、緊張が走りました。

すぐに高知市のHPでハザードマップを調べました。次の2点が明らかになりました。

- ・研究会の会場は、最大震度6強以上の恐れがある地域であること。
- ・地震後には、2~3mの津波が想定されている地域であること。

ただ漠然と南海トラフ地震に関するCMを見ていた私が、誰でもすぐに利用できる津波避難ビルを目の前で見た時に、やっと自分事として危機感をもつことができました。具体的・体験的な学びの重要性に改めて気付かされました。

南海トラフ地震への備えを考えている時に、ふと、次のようなことを考えました。

- ・災害に備えて行動することや災害時に命を守ろうと行動することは、究極の主体性(自分の意思・判断で行動すること)の発揮ではないか?
- ・この主体性を支える大元の考え方は、「自分を大切にすること」「他者を大切にすること」ではないか?
- ・この2つの考え方は、防災のみならず、私たちが必ず直面する「福祉(児童福祉、高齢者福祉、障がい者福祉)」「人権(多様な性のあり方、国籍を超えた人間関係づくりも含む)」等の課題解決にもつながる考え方ではないか?
- ・さらには、この2つの考え方は、結小学校が大切にしている「立志(目的意識)」と「気概(力強さとしなやかさ)」をよりよい方向に発揮するための基盤となる考え方ではないか?
- ・そうだとすれば、結小学校が、この2つの考え方を具体的・体験的に学ぶ場になることができれば、これからの社会を生き抜く力が育つ場となり得るのではないか?
- ・これが公立学校としての結小学校が果たす役割なのではないか?
- ・では、子どもたちが「自分を大切にすること」「他者を大切にすること」ためには、どのような力が中核になるのだろうか?
- ・「本当にこれでよいのか?」「これが今の最善か?」と「問う力」が大切だ。
- ・「よりよい方がこちらかもしれない」と「選ぶ力」も必要だ。
- ・「ここは手伝ってもらおう」と「頼る力」も欠かせない。
- ・とすると、授業では…。

このような妄想をしつつ3日間を過ごしました。

高知を去って1週間後の8月8日19時15分。

「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が発表されました。

今年も9月1日「防災の日」がやってきます。地震に限らず、日本で生活する私達は、様々な災害と共に生きていかなければなりません。「予測困難な時代」と言われる現代だからこそ、直面しつつある未来から、具体的・体験的に学び取っていく必要があります。

「防災」を窓口に、結小学校のあり方を問い直す夏休みでした。



秋葉区版総合ハザードマップ  
(新津第二中学校区)

# 学年を超えて 体験的に関わり方を学ぶ

結小学校では、1～6年生が数人ずつ一つの班に所属した、縦割り班での「ひしのみハッピータイム」やペア学年での「学習サポート活動」をしています。この活動には、以下のような目的があります。

- 異学年との活動を通して、児童に「関わり合う喜び」を感じさせる。
- 上の学年が自分の役割を自覚して行動し、下の学年のお手本になったり役に立ったりしたと感じることにより、自己有用感を育てる。
- 下の学年の人は、上の学年の人がしてくれたことに感謝し、「自分もあんな上級生になりたい。」という憧れの気持ちをもたせ、次の活動への意欲につなげる。

## ☆ひしのみハッピータイム

ピア・サポートタイムに縦割り班でやりたい遊びを決めて楽しく遊ぶのが「ひしのみハッピータイム」です。遊びを決める時には、班長を中心にやりたい遊びを出し合っ、みんなが楽しめる遊びを決めます。上学年は、下学年の人でも楽しめるよう工夫し、下学年は、上学年の人に教えてもらったルールを守って、遊びます。



## ☆学習サポート活動

1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生がペアになり、九九や計算、読み聞かせなどの学習に取り組みます。上学年は、一緒に問題を解くときに、どんな風に質問するか、どのように賞賛するかを事前に考えておきます。下学年は、分からないときに何て言えば気持ちよく教えてもらえるかを考えて質問します。

